県政特集

Prefectural Government

伝統的工芸品の新たな取り組み

伝統的工芸品とは、昔ながらの伝統的な技術と材料でつくられる、日常生活の中で使い続けられてきた工芸品のことをいいます。

南北600㎞に及ぶ県土から産出される原材料を生かし、伝統的な技術・技法により、生活文化としての工芸品が生み出され、産業環境やライフスタイルに合わせて改良を加えながら脈々と受け継がれています。

近年では、指定された工芸品のカテゴリーにとどまらず、民間企業や異業種とのコラボレーション等により、伝統の技と融合された魅力的で斬新なアイテムが生み出されています。

今回は、国指定工芸品の川辺仏壇と県指定工芸品の薩摩錫器の新たな取り組みを紹介します。

かごしまの伝統的工芸品デジタルパンフレット ▶

国指定伝統的工芸品

［本場大島紬、川辺仏壇、薩摩焼］

国指定の伝統的工芸品には本場大島紬、川辺仏壇、薩摩焼の3品目が指定されています。

川辺仏壇 × 現代ライフスタイル

川辺仏壇

Kawanabe Butsudan（Buddhist altar）

磨崖仏（まがいぶつ）やかくれ念仏で知られる南九州市川辺町において、「隠し仏壇」としてその技法が確立されました。豪華さと丈夫さを併せ持つ仏壇として定評があり、その工程は、木地（きじ）、宮殿（くうでん）、彫刻、金具、蒔絵（まきえ）、塗装、仕上げという7つに分類され、ほとんどが手作業で行われています。

川辺仏壇の技術を活用したインテリアや小物など、革新的なデザインのものづくりにも取り組んでいます。

川辺仏壇とファニチャー開発

川辺仏壇と（株）IFOOとのコラボ

住宅メーカーと連携し、川辺仏壇の技術を生かした祈りの道具（手を合わせる先）を開発しました。川辺仏壇の技術と伝統を残すために、現代の暮らしになじむ道具を追究した商品です。

伝統技術を再構築し、時代に即した美しさへ

川辺仏壇協同組合（橋口仏壇製作所）
橋口 知由さん

職人の高齢化による人手不足や、生活様式の変化による仏壇の需要減少など、近年、業界を取り巻く厳しい状況があります。この時代変化に対応し、職人の技術を生かした新しい仏壇の開発を住宅メーカーからご提案いただき、プロジェクトがスタートしました。

私たちは木材加工の工程を担っています。普段は黒く塗る部分が、木目が見える仕上げになるため、美しい木目の木材を吟味。仮組みする際も、後工程で漆を塗りやすいように、細部まで気を遣いました。全工程に手間暇かけ、伝統的かつ高度な職人の技が随所に盛り込まれた商品を、たくさんの方に見てもらえればと願っています。

（株）IFOO
谷 柾紀さん

建築士として家づくりに携わる中で、従来の仏壇は大きく、きらびやかで、現代のシンプルな家にはそぐわなくなってきていると感じていました。コンパクトでインテリアになじみ、職人の技術がきれいに見える、新たなデザインを考案してできたのが今回の商品です。

最近では和室を設ける家も減り、生活の中で仏壇に手を合わせる風習が少なくなりました。忙しい日々の中で、手を合わせ、心が安らぐ時間をつくるための「祈りの道具」になればうれしいです。さらに、世界に向けても、“自分以外のものと向き合う空間のある暮らし”を提案できればと考えています。

販売情報　DESIGN CASE by VEGAHOUSEオンラインショップ
https://designcase.official.ec

薩摩錫器 × 新技術

薩摩錫器

Satsuma Suzuki（Tinworks）

鹿児島では江戸時代に「錫山」で錫鉱山が発見され、薩摩藩の重要な財源となっていました。錫器の生産は明治期から盛んになり、贈答品として広く用いられていました。溶解から研磨まで全て手作業で行われており、漆と酸で模様を作り出す独特の技法で、屠蘇（とそ）器、花瓶、茶筒等が生産されています。

やわらかい素材である錫をミクロ単位で削る作業。手に持ったときの質感にも配慮しつつ、指先の感触だけで最適な厚みに。

県指定伝統的工芸品

［薩摩切子、竹製品、薩摩錫器など］

県指定の伝統的工芸品には32品目（令和6年3月時点）が指定されています。

2022かごしまの新特産品コンクール知事賞受賞

薩摩錫桜島タンブラー開発

（有）岩切美巧堂と県工業技術センターとのコラボ

県工業技術センターの世界初の桜島溶岩コーティング特許技術を取り入れ、虹色の発色に成功した新たな薩摩錫器を開発しました。見る角度や光の加減によりさまざまな色の変化を楽しめ、海外に向けてもアピールできる商品です。

鹿児島のシンボルが伝統&最新技術で新たな作品に

（有）岩切美巧堂　岩切 洋一さん

鹿児島を世界に発信できる新商品の開発を模索していたところ、桜島溶岩コーティングの特許技術を知りました。桜島の溶岩を機械で加工し、真空状態で高電圧を加えると微粒子が弾き出され、コーティング膜になる技術です。

特許技術を開発した県工業技術センターの協力のもと、錫器の模様との相性やコーティング膜の厚さなどを考慮して、何度も試作を重ねました。その結果、まるで桜島に架かる虹のように、眺める角度や光の具合で美しく変化する虹色が誕生。今までは、タンブラーの着色素材は自然のものにこだわっていましたが、今回は自然、科学、伝統工芸が融合した奇跡の作品だと思います。さまざまな業界の方と交わることで生まれた化学反応のたまものです。

薩摩錫器の約300年もの長い伝統を大切に守りつつ、若手とともに技に磨きをかけ、これからも新しい作品づくりに挑戦し続けていきます。

コーティング後　コーティング前

新技術「桜島溶岩コーティング」で虹色の発色に成功！

販売情報　薩摩錫器工芸館　TEL 0995-45-0177
〒899-4332　霧島市国分中央4-18-2
［薩摩錫器工芸館オンラインショップ］
https://www.satsumasuzuki.co.jp